

| | | |
|------|------------|--------|
| 御坂山塊 | 箆子から黒岳・河口湖 | No.066 |
|------|------------|--------|

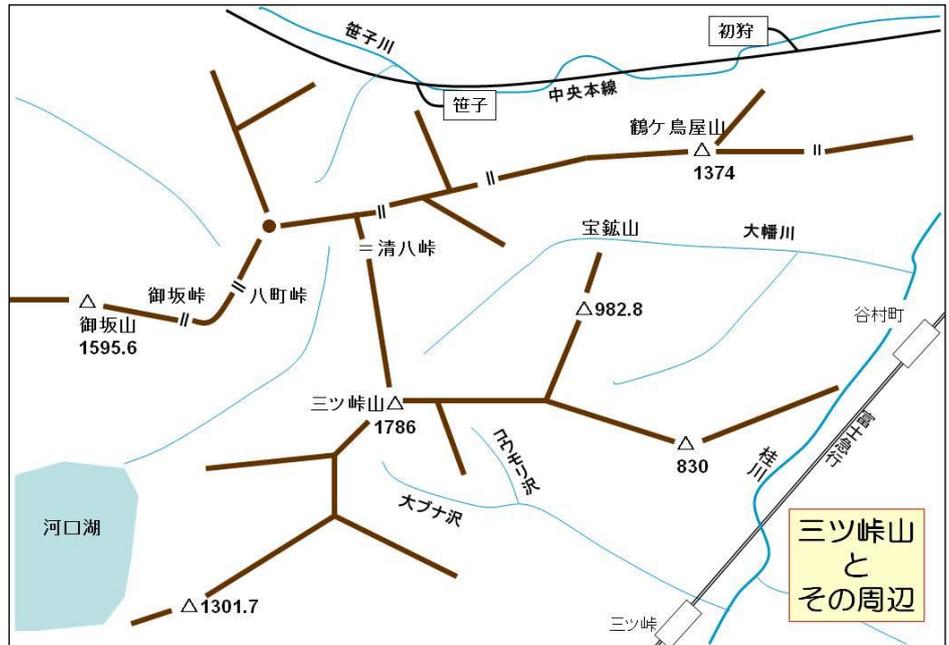
まだ巻機山の余韻が体から抜け切らないのに、もう次の旅。恩田との山は三月の那須以来久しぶり。

夏山(飯豊)を一ヶ月先に控え、肉体の準備も兼ねて歩くということになり突然決めた山行。
 天気はあまりあてにならないが、そんなことはどうでもいい。

昭和41年7月10日

1時10分、立川から臨時列車に乗り込み、通路にゴロンと横になる。

箆子着は4時15分。夜明け前の甲州街道を暴走するトラックのライトに照らされながら西へ歩き、追分で南に入ると



奥野沢川沿いの谷になる。この道は、この靴を買って第一回目の山行の時、恩田と三ツ峠に登った帰りに歩いた道だ。もう二年半前のことになる。清八峠(1593m)6時50分、10分の休憩。三ツ峠への道を南に分けて西へ進み清八山を越えると尾根は南に向かう。八町峠を経て御坂山へのゆるやかな登りが始まる。御坂山の中腹あたりで御坂トンネルの真上になり、自動車のエンジン音も耳に近い。

トンネル口から上ってくる登山道が合する所は海拔1435m(8時25分)。登ってくるハイカーの声が聞こえてくるところで食事。小雨に濡れた体を震わせながら、それでも顔からは汗を流して。9時20分に出発。御坂山(1595.6m)、頂上で数人のパーティが食事をしている。その周りを熊のようにうろつきながら、ある筈の三角点を探してみたが見つからない。残念ではあるが踏むことはあきらめる。三角点はどこへ消えてしまったのだろうか。ここは三角点探しだけで通過。



トンネルができる前は鎌倉往還が甲府盆地に入る前の最後の峠だった旧御坂峠。今ではかすかな越路しかないが、天下茶屋と名の付く茶屋だけはどっしりと残っている。井伏鱒二、太宰治が滞在したこともあるという。

天気がよければ素晴らしい富士が見られるはずだが……。しっばりと濡れた小枝や木の葉に脚をくすぐられながら黒岳(1792m)に登り着いた。11時15分、立派な小屋が人待ち顔で建っている。ヤマオダマキ、ホタルブクロともに寂しげに土を眺めている。13時30分までゆっくり休憩。

黒岳から河口湖への下り、思いも寄らぬニッコウキスゲの群落、そして雲の中から頭だけのぞかせた富士と河口湖。そしてニッコウキスゲの間にヤマハハコの可愛い立ち姿。これぞ憩いの場、と腰を下ろせば足元に赤地に黒の模様の立派な折り畳み傘が一本、骨も錆びてはいない。おそらく忘れられてまだ間もないようだ。ここで朽ち果てるのも気の毒と思い、戴いて行くことにした。

大石に下り、湖畔でバスを待ちながら寄せくる波を眺めているうちにバスが行ってしまった。仕方なく船着場まで歩いて、16時50分の遊覧船で船津に渡った。何やら厳しい歌謡曲を流しながら走る何とも興ざめな

踏み跡 < My mountains >

10 分間だったが湖上を横切る船は速い。17時に船津に到着。河口湖発17時17分の電車で帰宅した。深夜の国道歩きで始まった今回の山行は、湖を走る遊覧船で終るといふ珍しい旅になったが、天気も良くなかったため、ただ足元の草木にばかり目をやって歩いた。今までにやったことのない新しい山歩きのパターンとなった。ホタルブクロ、ヤマハハコ、ギボウシ、ニッコウキスゲ、アザミ、ミツバツツジ……、気をつけて見ているとこんなに色々あった。

以上

(修正・更新:2023年11月)